

国土交通省 説明資料

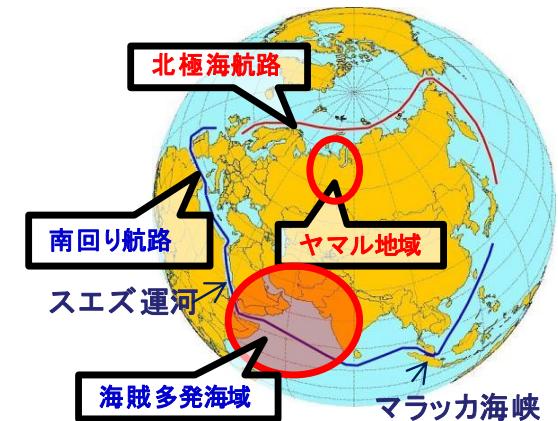
北極海航路の円滑な利用に向けた今後の取組

平成27年度概算要求: 23百万円

北極海航路に係る問題点

- 砕氷船支援料や水先案内人等のコストについて、上限は設定されているが下限が設定されておらず、実際は露企業との交渉により決定するため、実勢の運航費用が不明瞭。
- 北極海航路上の避難港や捜索・救難センターなどのインフラ整備状況が貧弱である上、インフラ整備の見通しが立っていない。

等



■ 横浜港からハンブルグ港(ドイツ)への航海距離の比較

北極海航路: 約13,000km
南回り航路: 約21,000km

約6割に距離短縮

今後の取組(予定)

- 北極海航路の自然的・社会的状況、技術的・制度的・経済的課題の整理等を踏まえ、具体的な運航のあり方並びに輸送貨物の品目等に係る調査検討業務を引き続き実施。
- 北極海航路に関する各種国際セミナーや会議等への参加を通じた、人的ネットワークの構築及び情報収集。
- 北極海航路の利用動向や技術的課題等の情報集約を行い、「北極海航路に係る官民連携協議会」等を活用して関係者に広く情報共有を図る。

新たなエネルギー輸送の増加に対応するための船員の確保・養成

平成27年度概算要求: 20百万円

北米からのLNG船によるシェールガス輸送、北極海航路の活用、豪州からの液化水素輸送等、新たなエネルギー輸送の多様化に対応する船員を養成するため、必要な訓練課程等の構築に向けた調査を実施

新たなエネルギー輸送のための船員養成 における課題

①シェールガス輸送：
LNGを燃料として運航する際の機関管理技術

②北極海航路：
北極海航路における安全な運航技術

③液化水素輸送：
液化水素輸送に対応する荷役及び水素管理技術

①～③：
安全対策技術、危機管理能力と非常時への対応訓練

(H27～)

訓練課程構築のための調査

(H28～)

訓練課程の設計・開発

船上における機関管理に関するシミュレータ等の設計・開発

極海における運航、超低温下における機器類の操作に必要な訓練の設計・開発

新たな安全基準に基づく訓練課程の設計・開発

- ・危機管理訓練の設計・開発
- ・非常時（火災、浸水、脱出など）への対応訓練設備の設計・開発

船舶による環境汚染防止のための総合対策

平成27年度概算要求:16百万円

ブラックカーボンに関する検討の開始

- 船舶から排出されるブラックカーボン(すす等の粒子状物質)による北極海域への影響懸念(例:海水沈着による黒色化、海水の融解促進)

➡ 国際海事機関(IMO)において2012年よりブラックカーボン規制について検討を開始

施策の目的、成果

- 我が国は世界有数の海運国であると同時に船舶用エンジンの製造国であり、優れた環境技術を保有。我が国の強みを活かしブラックカーボン排出規制の方法、基準値等の検討を行い、得られた成果を元に国際的な規制づくりに貢献。
- あわせて、我が国海事産業の競争力強化を図る。

施策の内容、スケジュール

平成26年度

- 船舶からのブラックカーボン排出状況調査

平成27年度

- ブラックカーボン削減可能性調査
- 排出規制の方法、基準値等の検討 等

平成28年度～

- 国際基準化の推進
- 削減技術の向上